

キャリア・パスポート活用例

～自分のよさを見付け、さらに頑張ろうとする～

校種・学年	4年生	教科等	学級活動
活用場面	年間指導計画に位置付け、定期的に自分のよさを見付け、確認し、さらに頑張ろうとする意欲を育てる。		

1 事例の概要

自分ができるようになったことや、自分のよさ・得意なことを見付けたり、友達や先生、保護者から教えてもらったりすることで、自信をもつことができる。

自分の将来の夢やなりたい自分に近づくためには、今の生活をよりよくしていくことが大切であると気づき、多面的な視点で今から頑張りたいことを考え、意思決定できるようにする。

2 活用の利点

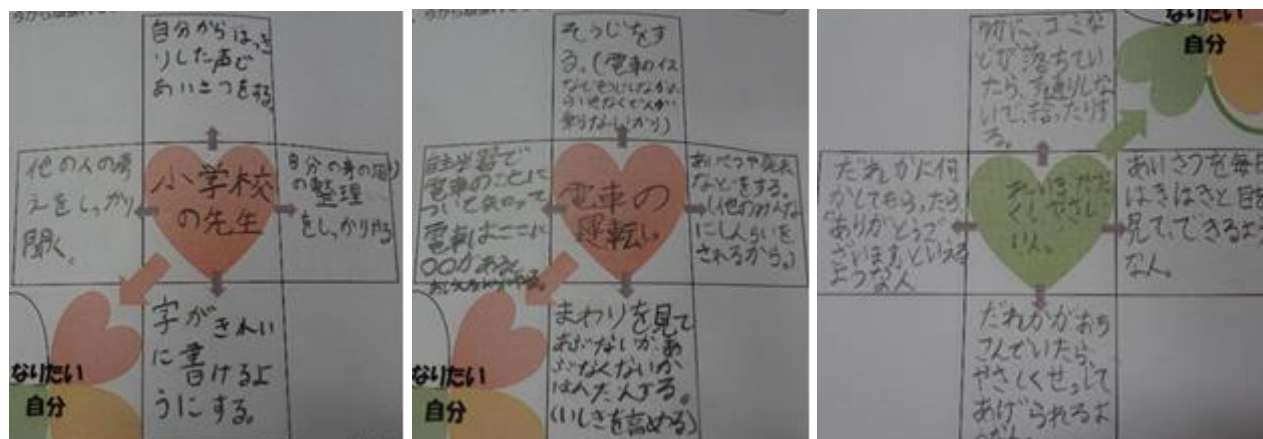
- ・学校全体の学級活動におけるキャリア教育年間指導計画を整備し、1年生、4年生、6年生と定期的に自分のよさを見付け、確認する機会を設ける。その結果、児童は自信をもつことができ、さらに頑張ろうとする意欲を引き出すことができる。
- ・今の生活と将来の夢やなりたい自分がつながっていることに気付くことで、今できることを探して主体的に努力する態度を育成できる。
- ・“なりたい自分”に向けて、得意なことを伸ばすだけでなく、苦手なことにも取り組むことが期待できる。
- ・今回紹介する4年生では総合的な学習の時間と関連付け、自分の将来やよいところを自身がよく把握したうえで、「10周年記念式」に参加させることで、児童が家族や友達の前で堂々と“夢宣言”を発表することができる。

3 資料

- ・4年生「夢に向かって第一歩」「夢宣言」
(1) 夢に向かって第一歩の授業の様子



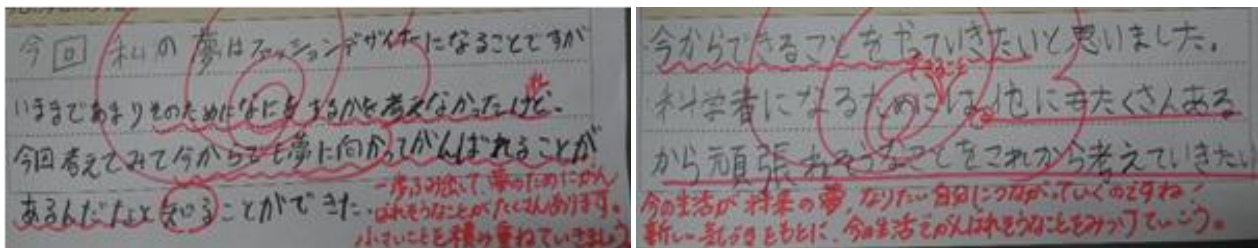
(2) 中央に記述した【小学校の先生】【電車の運転手】【れいぎたたく、やさしい人】という「なりたい自分」になるために、一歩踏み出して今から頑張れそうなことを記入した。



(3) 「なりたい自分」になるために、今から頑張ることを決め、夢宣言をした。



(4) 授業後の児童の振り返りの記述



(5) 総合的な学習の時間「10周年記念式」(二分の一成人式)で、“自分の夢”や“自分のよいところ”を自身がよく把握したうえで、家族や友達の前で堂々と“夢宣言”を発表した。

